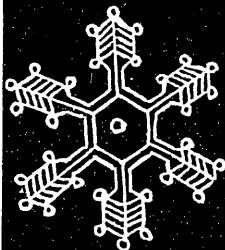


單級

日本修身書

甲篇

卷一



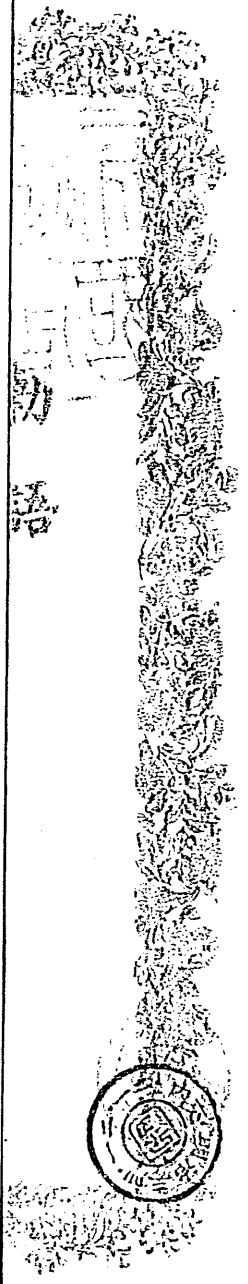
検定合格本



C 1

169





勅語

朕惟^フ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン

斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ咸其德ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

明治二十三年十月三十日

御名 御璽



單級

日本修身書

甲篇

緒言

一、本書は、明治三十三年八月發布の小學校令及び其の施行細則に基づき、尋常單級小學校修身科の用書に充てんとて、編纂せしものなり。

一、本書は、甲號三冊、乙號三冊に分ち、甲號は甲號、乙號は乙號、每巻毎課、その文章に難易繁簡こそあれ、その内容は、すべて同一の事項を記述せり。然れども、甲乙ともに、巻一には昔話、又はお伽話の類をうつせる圖畫のみを採輯したり。これ兒童の腦力上、かく爲さざるべからざればなり。但し、その昔話お伽話等は、

課ごとくに卷二卷三における事項に類似せることを、つとめて選び置きたれば、これを教授する時、巧みにその相互の事項を關係連絡せしむべし、然らざれば、著者が苦心全く水泡に歸せん。當事上こゝに意を用ひられよ。

一、單級小學校に、一年二年三年四年の四組の兒童ある時は、その三四兩年の兒童をかりに一組として、全部を三組に分ち、まづ最初の年には、甲號三冊をその三組に配當し、その翌年は乙號三冊を配當すべし。かくすれば、甲號の一より學び初めたる兒童は、次年に乙號の二を學び、次々年に甲號の三を學び、その又翌

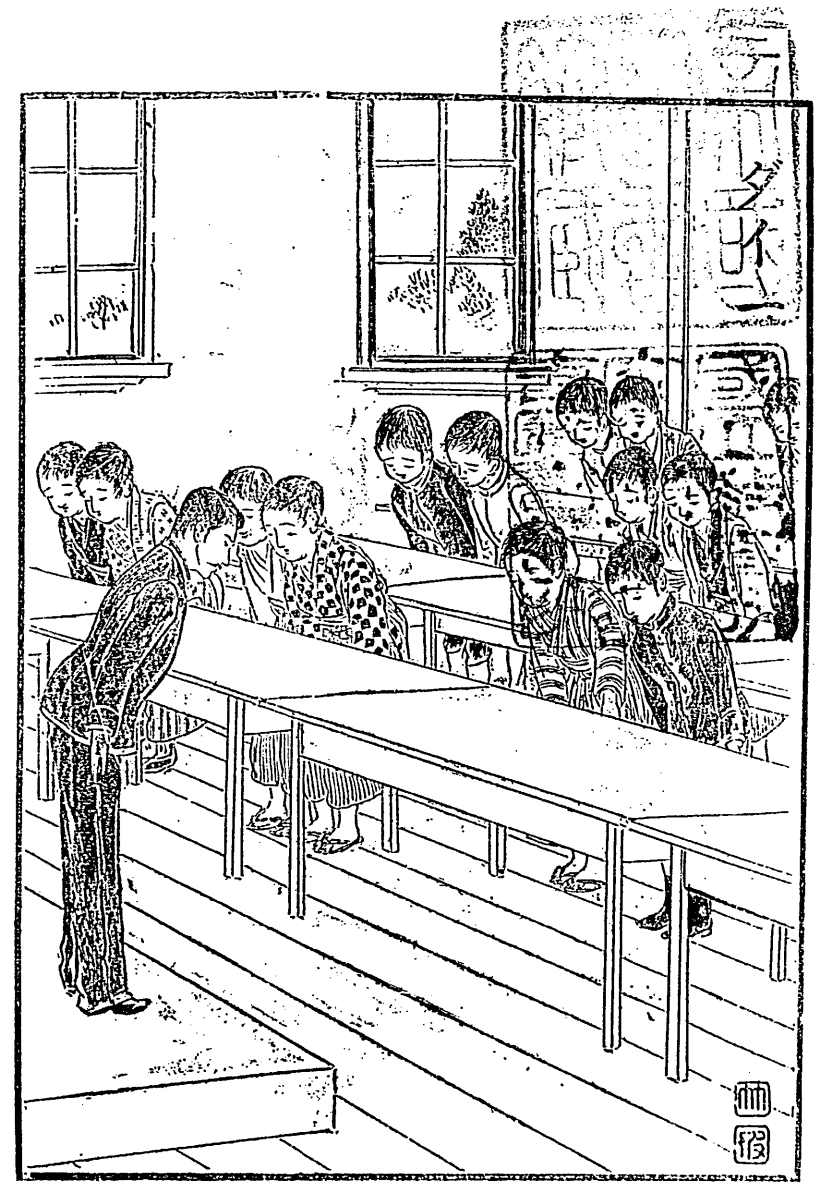
年に乙號の三を學ぶことゝなる、又これと異にして乙號の一より學び初めたる兒童は、次年に甲號の二、次々年に乙號の三、その又翌年に甲號の三を學ぶことゝなるべし。なほこれを詳しく言へば、今年新に入學せしものは、その年に甲號の卷一を學び、明年は乙號の卷二を學び、その翌年は甲號の卷三を學び、またその翌年は乙號の卷三を學ぶべし。また明年新に入學せしものは、その年に乙號の卷一、その次年には甲號の卷二、次々年に乙號の卷三、そのまた次年には甲號の卷三を學ぶべし。而して今年二年の課程を修むるものは、甲號の卷二を學び、三年及び四年の課程

を修むるものは、共に甲號の卷三を學ぶべし。その他は、すべてこれに準ず。

明治三十四年十月



甲篇卷一



印



日本修身書
第一卷
三
文
學
社



日本修身書
第一卷
二
文
學
社

ダイ三



ダイ四



ダイ五



ダイ六

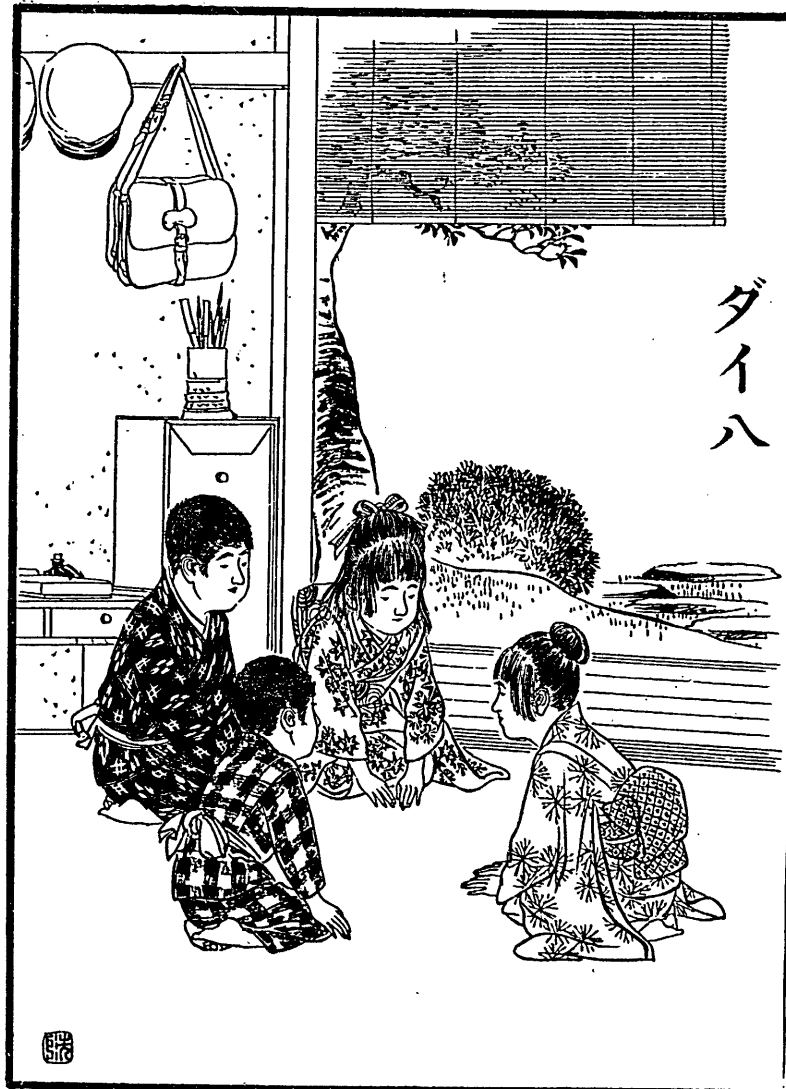


印

ダイ七



ダイ八



Small square seal or mark at the bottom left of the illustration.

ダイ九

西龍正





夕イ十

印

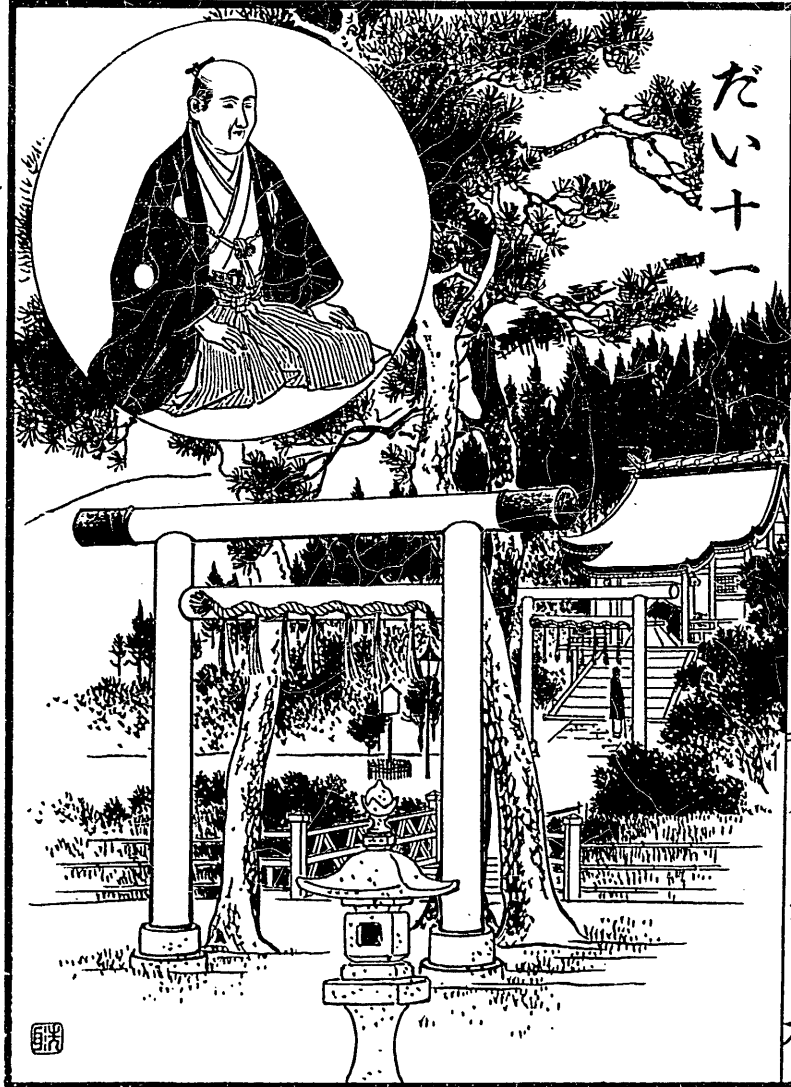
印



印

印

だい十一



だい十二



だい十三



印

だい十四



印

だい十六

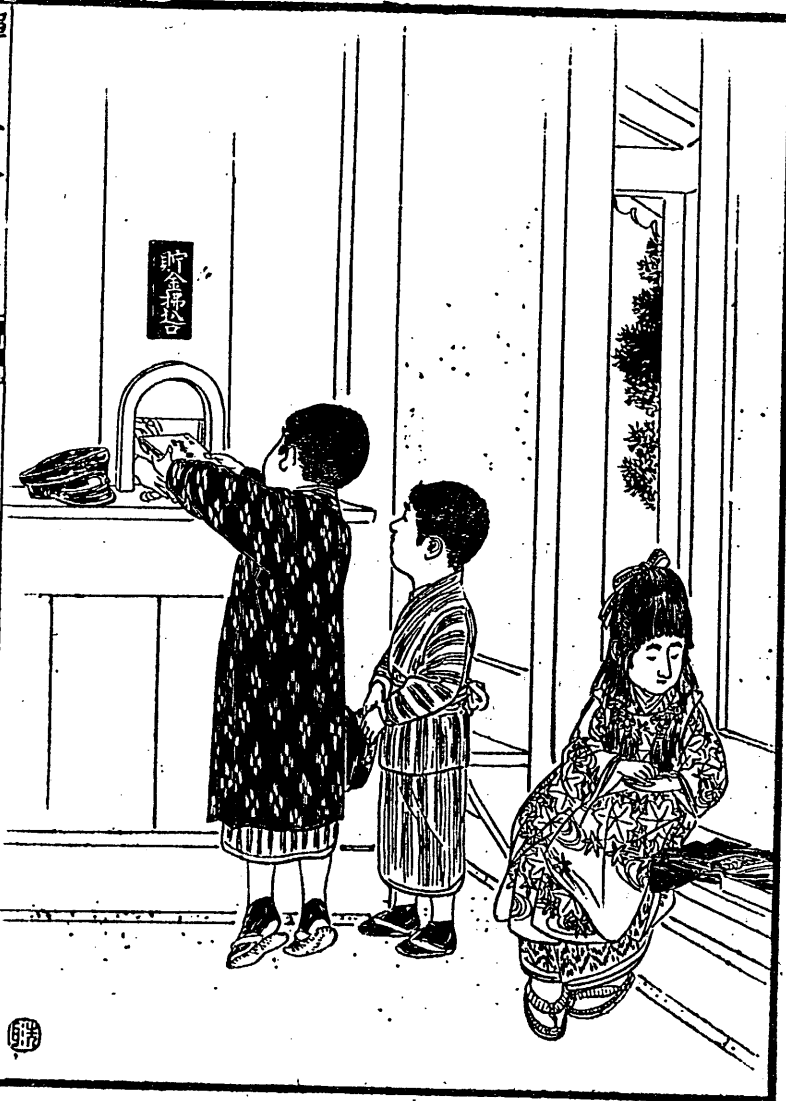


社



社

日本書紀 甲卷第一 十一



日本書紀 卷一 十一

甲斐守 一 十 八

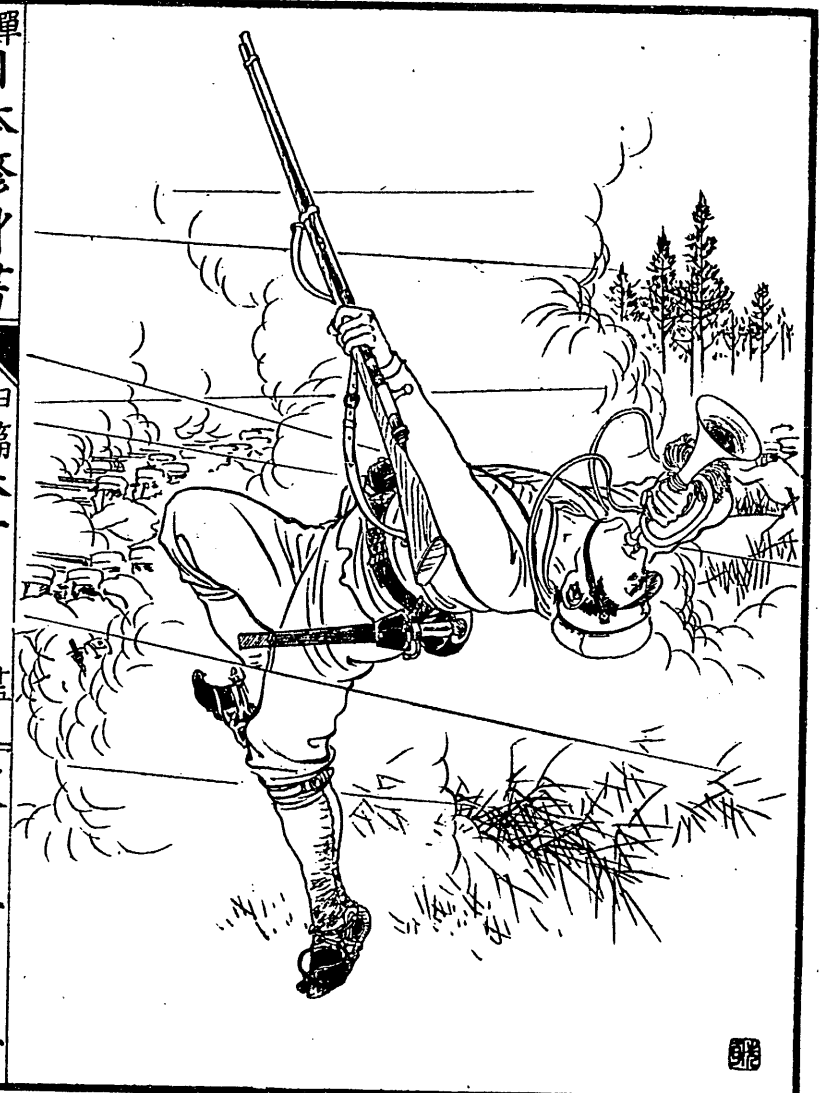


八十年代

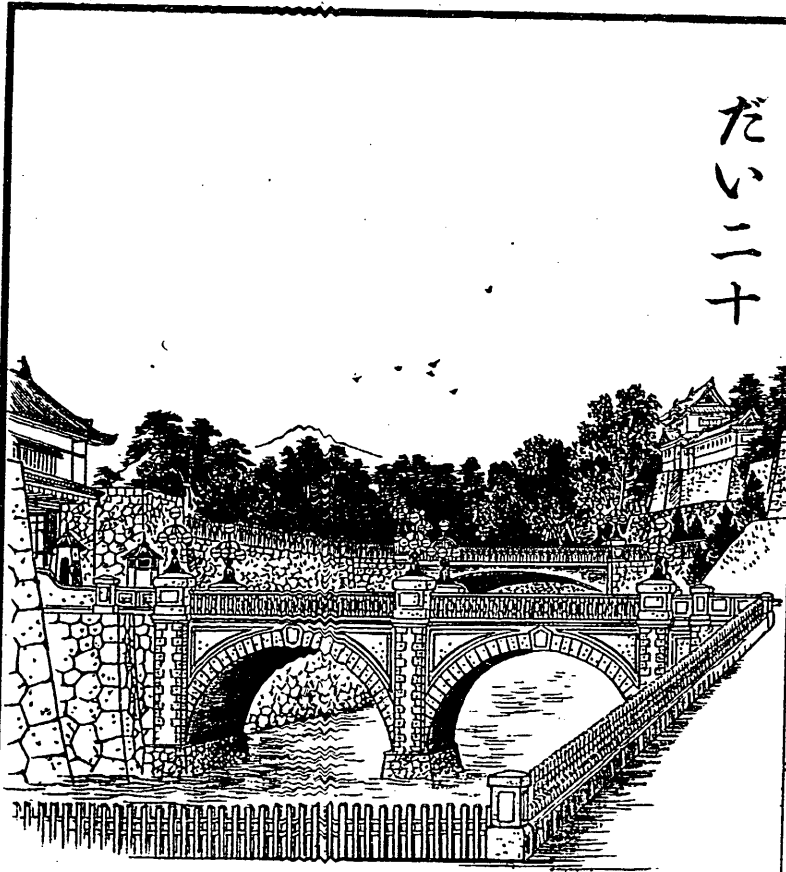


新正神楽舞

だい十九



だい二十



印



印

1
6
193

K120.8

級日本修身書 卷一 文學社

をほり

明治三十四年十月九日印刷
 明治三十四年十月十二日發行
 明治三十四年十二月十三日訂正再版印刷

文學社編輯所編纂

級日本修身書	
甲編	乙編
九錢	九錢
拾貳錢	拾貳錢
拾六錢	拾六錢

發行所

東京市日本橋區本町四丁目十六番地

發兌

東京市日本橋區本町四丁目十六番地

印刷所

東京市神田區錦町三丁目一番地

賣捌所

各府縣下特約書林

著作權
所有



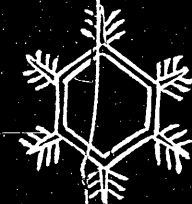
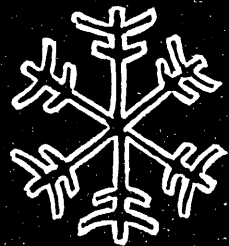
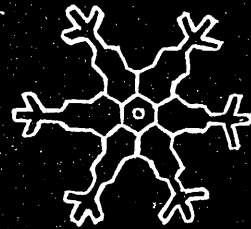
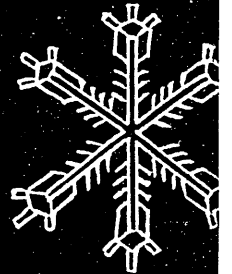
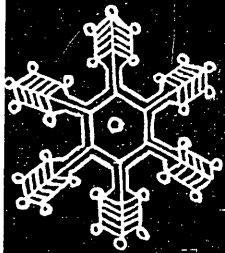
單級

日本修身書

甲篇

卷二

6
195



検定合格本

K1201
68a
2

